

# 3-6

## 利用者主体の施設生活とは

### 養護老人ホームにおける自治会活動を考える

利用者の主体性

自治会

養護老人ホーム 白寿荘

支援員 吉川 侑里

生活相談員 角町 博伸

目黒区大橋 2-19-1

支援員 志村 靖子

03-3466-0267

hakujusou@almond.ocn.ne.jp

03-3466-6258

<http://www17.ocn.ne.jp/~hakuju/index.htm>

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要

白寿荘は昭和 28 年に開設された目黒区にある養護老人ホームです。入所定員は 168 名。H18 年 10 月の制度変更以降は、施設内に訪問介護ステーションを立ち上げ、要介護状態の利用者に向け介護保険サービスを提供しております。

#### 〈取り組んだ課題〉

白寿荘には、『信和会』といわれる利用者主体の自治会があります。昭和 28 年に白寿荘が開荘され、信和会は昭和 39 年に組織されて今日に至りました。以来 44 年間、利用者の皆様の親睦を図ることを目的に活動されてきました。

信和会では、役員の方が中心となって、行事の準備、片付け、食堂のお手伝いなどがあります。これら活動は白寿荘の生活を支え、職員と一般利用者を繋げる重要な役割を持っています。

しかしここ数年、利用者の ADL 低下により活動に参加できない利用者が増え、信和会の運営が難しくなってきました。また新入荘の利用者が増えたことにより、自治会の役割や活動を理解していない利用者が増えたことにより、役員と一般利用者との間に意識の差が生じてきたという問題点が浮上してきました。

#### 〈具体的な取り組み〉

- ・ 役員対象に無記名でアンケートを実施し、役員の率直な思いを把握する。
- ・ 役員以外の利用者に対しても、日頃のお手伝いに関して思うことをアンケートで把握する。
- ・ 信和会に関する知識を周知する為、信和会についてのポスターを掲示する。
- ・ 普段お手伝いされている方々を白寿荘便りで紹介して、労をねぎらう。

#### 〈活動の成果と評価〉

- ・ 役員の負担の軽減
- ・ 役員以外の『信和会』への関心と理解の向上
- ・ 役員と一般利用者の意識の格差縮小

#### 〈今後の課題〉

- ・ 今後、利用者の ADL 低下に伴い、お手伝いの参加活動・項目の内容に、ここに見直していく必要がある時期に来ている。
- ・ 役員が職員と一般利用者の相互理解の架け橋となるよう支援していく。